

報 告 書

開 催 日 時	令和4年8月3日（水） 19時00分 ～ 21時00分		
自治協議会名	阿保地区住民自治協議会	開 催 場 所	阿保地区市民センター
出席議員	釜井敏行、宮崎栄樹、田中覚、中谷一彦		
	班 長	釜井敏行	記録・報告者 宮崎栄樹
参加人数	20 名		

【主な意見・提言等】

（１）複合施設、自治協のあり方について

①自治協のあり方

- ・住民の自治協の認知度が低い。総会資料を配布し活動を周知している。
- ・自治協の活動は住民にボランティアで参加してもらっている。包括交付金が減っており、活動の展開に悩んでいる。コロナ前と同等の活動はできないかもしれない。自治協の課題を活動に反映してもらいたい。
- ・合併後から自治協のメンバーは変わっておらず、高齢化してきている。定年延長で退職者が入ってこない。マンパワーが足りない。

②複合施設

- ・今年度から支所の体制が変わった。支所の権限や予算がなくなり、考えてくれる職員がいない（対応が変わった）。ただし、支所はよく動いてくれている。
- ・支所に自治協を引っ張るプロにきてもらいたい。
- ・支所の時間外の対応、危機管理体制が脆弱。これまでは宿直に連絡出来ていたことが、地元にいる職員に対応してもらったことがあった（水道管の漏水）。

➤議会からの意見・提言等

- ・市民センター職員が自治協をどれだけサポートできているか整理が必要。
- ・生涯学習支援員の業務について、支所のサポート体制、市民センターとの連携が大事。
- ・以前あった連絡所のような仕組みをつくるべき。公民館も連絡所単位でやっていけばよい。支所を残すのではなく、自治協の支援、市民センターへの人員配置に力をいれるべき。
- ・今後、集落支援員（総務省の制度）の配置も考えていくことが大事。

（２）過疎対策（空き家対策中心）について

- ・高齢化・人口減少が進んでいる。若者子育て世代に移り住んでももらいたい。子育て、教育など特化した施策に取り組んでももらいたい。
- ・空き家バンクの登録の仕方がわからない。

- ・交通の便が悪い、開業医がいるが治療が限られている。息子には帰ってこなくていいと言っている。
 - ・空き家バンクに、移住希望の方と地域の間に入ってもらおうとしたが、二回ドタキャンされた。入ってくれていたら話がうまくいったかもしれない。
- 議会からの意見・提言等
- ・議会から空き家対策室がしている勉強会の紹介をした。
 - ・移住するにも、住むのが面倒なのは（区費、区費のランク、消防団、獅子舞等の付き合い）。一方、田舎の付き合いが好きな人もいるかもしれない。
 - ・阿保地区の空き家バンク登録物件は少なくない。登録されれば人はくる。

（３）同日選挙について

①同日選挙について

- ・人口減少していくなかで経費削減は必要。
- ・名張の例をみると、投票率が上がったことは良い。一方で、二つの選挙を同時にすることで、議員と市長の政策が混在し、判断しにくいのではないか（現状は判断しやすい）。
- ・市長に迎合する議員、反市長の議員が出る。政策で勝負することが大事。

②投票所のあり方

- ・投票のあり方も見直して欲しい。特に高齢者は、投票に行くのに手間になるため、駅前やスーパーなどでも投票できるようにして欲しい。
- ・以前、投票所を減らすという議論があったがどうなったのか。年々期日前投票が増えているため、青山地区 19 カ所の投票所は多くないか。立会人や職員の負担もあるので、投票所を減らしていいのでは。バスを巡回させるのもいいかもしれない。

③議員定数、その他

- ・同日だけでなく、定数も含めて議論していただきたい。
- ・議員定数は人口減少する中で行政需要に応じた適正な定数にしていきたい。
- ・議員の地域代表の性質は薄い、市の政策を語ることが大事。
- ・18 歳から投票できる中で投票率向上も大事。

伊賀市議会議長 様

令和 4 年 8 月 22 日

上記のとおり、地域意見交換会の概要について報告いたします。

令和 4 年度地域意見交換会 5 班

班長 釜井敏行